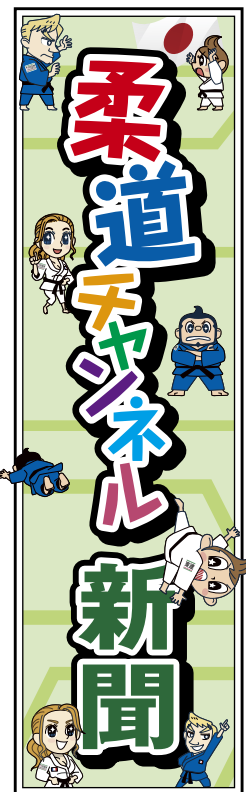




▲2年ぶり10度目の優勝を飾った国士館高校

超ド級のエース・斉藤立擁する 国士館高校が10度目の優勝



連日の猛暑の中、福岡県福岡市のマリンメッセ福岡で開催されていた金鷲旗高校柔道大会は、7月24日(火)の男子団体戦で閉幕した。

男子決勝は、全国高校選手権大会と同カド、国士館高校(東京都)と天理高校(奈良県)の名門校対決となったが、春に続き、ソウル五輪王者故・斉藤仁さんの次男、斉藤立擁する国士館高校が接戦を制して優勝(2年ぶり10度目)。天理高校は悲願の初優勝ならず。3位には日体大荏原高校(東京都)と大牟田高校(福岡県)が入った。

昨年優勝の桐蔭学園は6回戦で敗退し8強ならず

今大会の男子シード校は、今春の全国高校選手権大会ベスト16のチームが選出された。昨年優勝の桐蔭学園高校(神奈川県)もシード校として順調に勝ち進んでいたが、普成高校(韓国)との5回戦は苦戦を強いられた。結果は大将同士の延長戦で、桐蔭学園・大将の村尾三四郎が「技あり」を取られながらも、試合時間残り9秒で3つ目の「指導」を獲得し辛勝した。しかし延長戦は「指導」が、本戦から累積されるといって「金鷲旗ルール」の通達が不十分だったために普成が猛抗議。試合進行が中断されることとなり、当事者チームにとっても、観客にとつても後味の悪い結果となってしまった。

なお、シード校の長崎日大高校(長崎県)、福井工大福井高校(福井県)、秋田工業高校(秋田県)が4回戦で、崇徳高校(広島県)、埼玉栄高校(埼玉県)が5回戦で姿を消した。

シード校の中でも優勝候補に目されたのが、全国高校選手権王者の国士館高校(東京都)と、準優勝校の天理高校(奈良県)。ロシア・ジュニア国際大会100kg超級で優勝した斉藤

立擁する国士館と、全国高校選手権大会無差別級王者の中野寛太が大黒柱の天理は、それぞれのエースを温存したまま危なげなく、パース決勝(6回戦)へ進出。

この他、シード校からは東海大札幌高校(北海道)、東海大相模(神奈川県)、福岡大大濠高校(福岡県)、木更津総合高校(千葉県)、沖繩尚学(沖縄県)、作陽高校(岡山県)、大成高校(愛知県)、大牟田高校(福岡県)が、ノースード校からは東海大大阪仰星高校(大阪府)、西日本短大付高校(福岡県)、日体大荏原高校(東京都)、柳ヶ浦高校(大分県)、東海大甲府高校(山梨県)がベスト16に勝ち上がった。

6回戦でとりわけ注目されたのが桐蔭学園 vs 作陽戦。両校の対戦は、大将同士にもつれ込む激戦となったが、作陽・高橋翼が、桐蔭学園のエース・村尾に小外刈り「技あり」からの横四方固め「技あり」の合わせ技で本勝ち。作陽が昨年優勝の桐蔭学園を破り、ベスト8進出を果たした。



▲昨年優勝の桐蔭学園が6回戦で作陽に苦杯。大将同士の戦いでエース村尾が高橋に合わせ技で敗れた

ノースードの日体大荏原が準決勝進出を決める

【準々決勝】

国士館高校 vs 西日本短大付高校
日体大荏原高校 vs 福岡大大濠高校
天理高校 vs 木更津総合高校
作陽高校 vs 大牟田高校

準々決勝、ノースード校で唯一勝利を挙げ、ベスト4進出を果たしたのが日体大荏原。日体大荏原は、次鋒の平山才稀が福岡大大濠・次鋒の石崎信太郎を合わせ技で破って1点リード、中堅の藤原直生が福岡大大濠・副将の釘本陸を「技あり」で破り、福岡大大濠・大将の中西生に払い腰「本」を許すも、副将のグリーンカラニ海斗がその中西と引き分け、不戦1人残しで準決勝進出を決めた。

国士館は、先鋒の林将太郎の3人抜きなどの活躍もあり、西日本短大付に不戦2人残しの危なげない内容で勝利。天理は関東大会優勝の木更津総合と対戦し、中堅戦まで引き分けの

あと、副将・井上直弥が、木更津総合エースの板東虎之輔から袖釣り込み腰「技あり」を奪われ1点ヒヤインドとなるも、大将の中野が板東を内股で蹴。そして続く木更津総合・大将の浅野史恵を小外掛け「本」で畳に沈め、準決勝進出を決めた。

大牟田と作陽との対戦は、先鋒戦で大牟田の服部大喜が小外刈り「本」で先行。3試合引き分けのあと、作陽・大将の高橋が支え釣り込み足で大牟田・副将の竹市大祐を破り、森健心との大将同士の戦いに持ち込み、延長戦まで奮闘するも、最後は立っているのもやつの状態で、「指導3」反則負け。大牟田が準決勝に駒を進めた。



▲準々決勝。天理の大將・中野が木更津総合・副将の板東を内股で一蹴

決勝は高校選手権と同カード 国士館VS天理の強豪対決

【準決勝】

国士館高校 vs 日体大荏原高校
天理高校 vs 大牟田高校

ノーシードから勝ち上がった日体大荏原と春の高校選手権優勝の国士館、東京対決となった準決勝第試合。

先鋒戦引き分けのあと、先手を取ったのは日体大荏原。日体大荏原の次鋒・平山が国士館の安藤稀梧から小外刈りで「技あり」を奪ったあと、安藤の「指導」反則負けにより貴重な先取点を取った。しかし、国士館中堅の藤永龍太郎が平山を内股「二本」で破ってタイに戻し、続く日体大荏原・中堅の藤原(直)にも内股で快勝。さ



▲準決勝。国士館・中堅の藤永が日体大荏原・中堅の藤原に内股で一本勝ち

らに、副将のグリーンカラニも横四方固めで破り、一気に大将の内藤彪我までたどり着いてしまった。ここで内藤が意地を見せ、支え釣り込み足で藤永を破って1点を返すも、副将の道下新大を攻め切れずに引き分け。大将・斉藤はこども試合することなく国士館の決勝進出となった。

もう一方の準決勝は、高校選手権準優勝・大黒柱・中野を中心に前評判が高い天理と、4人が2年生という若い

チームながらよく鍛えられた地元・大牟田の対戦。

先鋒戦で天理の植岡虎太郎が、大牟田の服部を袖釣り込み腰「二本」で破ると、続く大牟田・次鋒の久保田皓晴にも右背負い投げで二本勝ち。天理がスタートダッシュに成功、2点をリードした。大牟田は中堅の3年生・立石泰勝が背負い投げを返して、「技あり」植岡を止め、続く天理・次鋒の池田凱翔と引き分けて意地を見せる。

しかし、天理・中堅の水上世嵐が大牟田・副将の竹市を大腰「技あり」で破って再びリードを広げる。後のない大牟田だったが、大将の森が水上を大外刈り「二本」、続く天理・副将の井上直哉にも内股「技あり」で快勝、ついに大将同士の戦いに持ち込んだ。

しかし、森の奮闘もここまで。天理・大将の中野は、意表を突く袖釣り込み腰で担ぎ上げると、きれいに背中から落として二本勝ち。28秒で決着をつけた。



▲準決勝。天理の大将・中野が意表を突く袖釣り込み腰で大牟田・大将の森に一本勝ち

国士館が激戦の末に優勝 高校三冠に王手かける!

【決勝】

国士館高校 vs 天理高校

先鋒 長谷川 碧 植岡 虎太郎

次鋒 酒井 陸 池田 凱翔

中堅 藤永 龍太郎 水上 世嵐

副将 道下 新大 山中 瞭

大将 斉藤 立 中野 寛太

高校選手権と同カードとなった決勝。両校ともに、春のメンバーから1人を変更しただけながら、オーダー的にはまったく異なり、変わっていないのは、国士館の大将・斉藤のみ。金鷲旗は代表戦がなく、大将戦の延長で決着をつけるため、各校のエースが大将に配置される。天理も当然、中野を大将におく布陣で臨んだ。

今大会好調の天理先鋒の植岡は、開始早々、長谷川からタイミシングのいい背負い投げで「二本」を奪い、天理が幸先のいいスタート。植岡は、続く国士館・次鋒の酒井ときつちり引き分け。いい形で次鋒の池田につないだ。しかし、国士館中堅の藤永も今大会非常に好調。池田から寝技で「技あり」を奪ったあと、内股で二本勝ちして振り出しに戻した。藤永は天理・中堅の水上に対しても果敢な攻めを見せる

も、思い切り仕掛けた内股をきれいにすかさず二本負け。再び天理のリードとなった。しかし、相手のペースになりにような場面でも、その流れを止められるのが今大会の国士館の良いところ。続く、副将の道下は、水上の内股を小外刈りで返して「技あり」を奪うと、その直後には、追い込みながらの、2段の小外刈りで二本勝ち。道下と山中の試合が引き分けに終わり、勝利の決着は、両校のエースに託されるこ



▲決勝。国士館・副将の道下が小外刈りで水上に一本勝ち

とになった。

固唾を飲んで試合場を見つめる観客。超高校級2人の対決ということ、何とも言えぬ緊張感が漂うなか、大将同士の戦いは始まった。変な駆け引きはなし。真正面から技を仕掛けていく両者。斉藤が左大外刈りを掛ければ、中野も小外刈り、袖釣り込み腰、さらに足払い。斉藤が大内刈りから内股、さらに大外刈り。途中、斉藤の技に防戦気味となった中野に「指導」が与えられるも、両者の攻撃姿勢になんら変化はなし。ともに「二本」だけを狙い、斉藤が内股、大内刈り、払い腰と全力で掛ければ、中野もそれを全身全霊で受け、自らも支え釣り込み足、大外刈り、大内刈りで反撃するという展開が続く。時に胸を合わせ、まさにノーガードの打ち合い。真つ向勝負の気迫が会場中に伝わり、緊張感が高まった残り30秒。不意にその時

がやってきた。



▲決勝。大将同士の戦い。両者素晴らしい攻防を見せたが、最後は斉藤の大外刈りからの大外落としが決め手「一本」。両者の激闘に惜しめない拍手が送られた

斉藤が大外刈りを仕掛け、中野が踏み止まったところを、さらに斉藤が大外落としのように倒れ込むと、中野の身体は大きく回って背中から落ちて「二本」。この瞬間、国士館の2年ぶり10度目の優勝が決まった。

激闘に勝利した国士館の岩淵監督は「春・高校選手権に勝っている、この大会は絶対に勝ちたいと思っていた。決勝の大将戦は、斉藤が今大会初の試合だったので、もちろん不安はありましたが、やってくれると思っていた。全員で取った優勝です。次はインターハイ。チーム丸となって「高校三冠」を取りにいきたいと思います」と、喜びとともに語った。



▲岩淵監督の後には、優勝の立役者・斉藤の胴上げも

平成30年度 金鷲旗高校柔道大会 男子団体戦の結果

優勝	国士館高校
準優勝	天理高校
3位	日体大荏原高校
	大牟田高校

大牟田(福岡)
作陽(岡山県)
本更津総合(千葉県)
天理(奈良県)
福岡大大濠(福岡県)
日体大荏原(東京都)
西日本短大付(福岡県)
国士館(東京都)